

三島 喜吉 議員 … 3 件の一般質問

高速交通ネットワークビジョンは



町長：本町の目指す姿の実現に繋がっていく

三島

北海道横断自動車道の俱知安―共和間の2016年度新規採択時評価の手續に着手することが、3月3日の新聞報道等でされた。

この道路は、道央環状自動車道として位置づけられ、観光、防災、そして医療と大きな効果が期待されている。

①本町市街地へのインターチェンジ予定地としての構想を伺う。

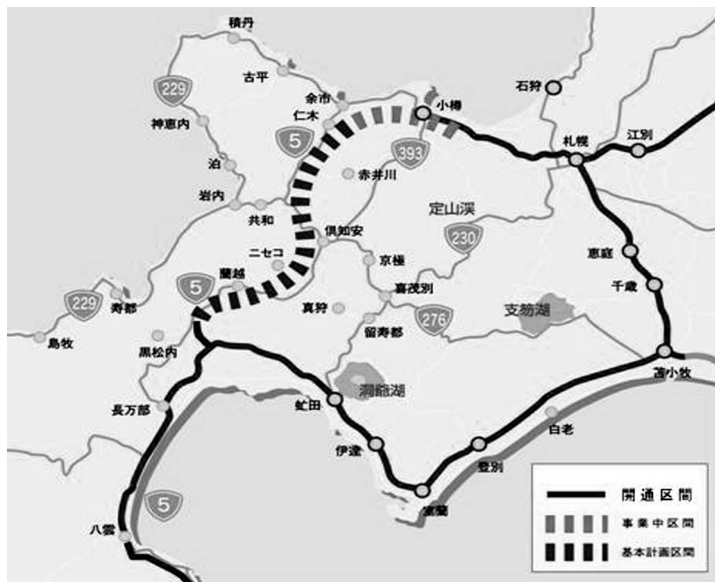
②自動車道と新幹線が結びついたまちづくりのビジョンを伺う。

町長

これまで長年にわたりオール俱知安での要望活動等を行い、その必要性や効果を財務省や国交省、そして国会議員の皆さまに熱意を伝えてきた。ここに鈴木議長をはじめ、町議会議員の皆さま、そして多くの町民の皆さまの尽力と理解のたまものと、心から感謝申し上げる。

①インターチェンジの予定位置について資料では、俱知安町字旭と示されている。

②本件が、正式に新規事業



北海道横断自動車道 余市俱知安間

業化が決定された場合は、北海道新幹線俱知安駅開業とほぼ同時期での供用開始が見込まれ、いよいよ私たちは高速交通新時代を迎えることになる。

高速道路のインターチェンジと新幹線駅という2つの玄関口として、連携・補完し合い、ゲートウェイ機能をいかに生かすことができるかが、最も大きなテーマの1つとなる。

交通と観光のハブ拠点としての位置づけが明確

になり、広域的な観光ルートの展開が期待され、バスなどのターミナル機能の充実が欠かせないものとなる。

本町の目指す町の姿、ふれ合い豊かに質の高い暮らしと文化がある町の実現につながっていくものと確信しているので、一層の理解とまちづくりへの参加をぜひともお願いしたい。

農業担い手対策

三島

本町の基幹産業である農業の担い手対策は、永遠の課題とも言え、大変重要な課題である。

①農業後継者の世代別の状況。

②未婚率の状況。

③町と関係団体との協力体制。

町長

①農業後継者の世代別の状況については、18歳以上で、現在、全体で40名弱程度であり、そのうち10代が6%、20代が44%、30代が50%という構成となっている。40代以上の世代は、親子経営を譲り受け、ほとんどの方が既に経営主となつている。

②後継者の未婚率の状況は、全体で6割程度、20代では8割、30代で4割の方が未婚となっている。③本町では、農業後継者対策協議会に補助金を交付し、後継者の育成事業や花嫁対策事業に取り組んでいる。

農業新作物導入対策

三島

本町の基幹作物のバレイショが、価格低迷で、農家の経済状況が低下してきている現状にあると言われている。このような状況の中で、高収益作物の導入検討、研究を今後していく必要があると感じている。

町長

本町の農業を守り、育てていく中で、町長の前向きな考えを伺う。収益性の高い施設野菜の通年栽培は、農家所得を補完し、新たな営農形態を生み出す期待も大きく、高収益作物導入実証試験圃の設置に要する経費を新年度予算に計上した。

今後、費用対効果を検証し、作物の選定を行い、施設野菜の栽培による収益が見込め、必要にあつた作付面積と生産者が確保できる状況が見えたとき、本格的な栽培を支援するためのビニールハウスの設置に対する助成も進めていきたいと考えている。